

日本気象協会 2024年 春の花粉飛散予測(第3報) ～まもなくスギ花粉シーズンスタート ピークは2月下旬から～

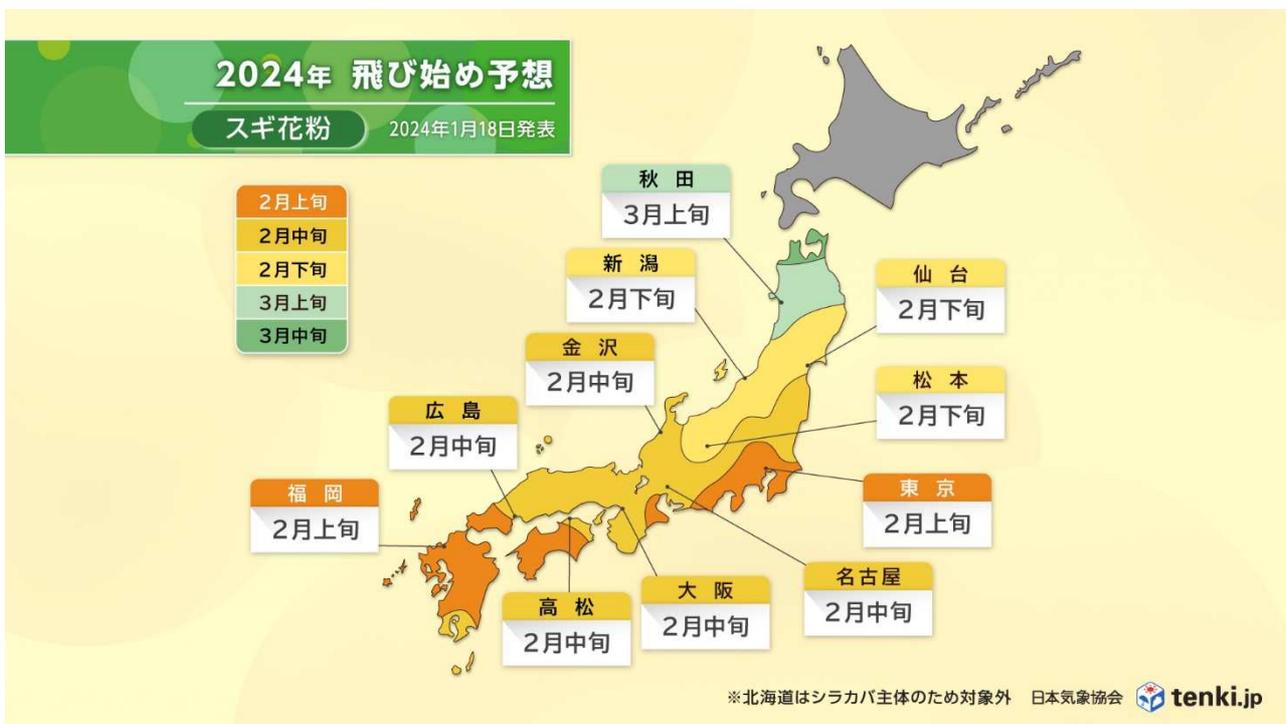
◆2024年 春の花粉飛散予測のポイント

- ・スギ花粉は2月上旬に九州から関東の一部で飛散開始
- ・飛散開始前から、わずかな量の花粉が飛ぶことも
- ・スギ花粉のピークは2月下旬から3月下旬、ヒノキ花粉は3月中旬から4月中旬
- ・花粉の飛散量は、多くの地域で例年並みかやや多い

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:渡邊 一洋)は、2024年1月18日(木)に全国・都道府県別の2024年春の花粉(スギ・ヒノキ、北海道はシラカバ)飛散予測(第3報)を発表します。また、詳細な情報を、「2024年春の花粉総飛散量 予測資料」として販売します。

1. 2024年 スギ花粉の飛散開始時期

スギ花粉は、2月上旬に九州・四国・中国・東海・関東甲信の一部で飛散開始となる見込みです。近畿は2月中旬、北陸、東北南部は2月中旬から下旬、東北北部は3月上旬から中旬に飛散開始となるでしょう。スギ花粉シーズンは例年並みか例年より早いスタートとなる見込みです。





スギの雄花は、初冬に冷え込みが厳しいと休眠打破が順調に進み、休眠から目覚めた後は、暖かいほど開花が早くなる傾向があります。この冬は気温が高めに経過しているものの寒暖差が大きく、12月後半に冷え込む時期があったことから、休眠打破はある程度進んでいると考えられます。1月前半は気温が高めに経過したこともあり、スギ花粉がわずかに飛んでいる地域があることが確認されました。この先も寒暖差が大きく、1月下旬は寒さが厳しい日が多くなりますが、2月の気温は平年より高めに推移するでしょう。このため2月に入るとスギの開花が進み、福岡や東京など早い所では2月上旬に飛散開始となる見込みです。

なお、この先も飛散開始と認められる前から、わずかな量の花粉が飛ぶことがありますので、早めに花粉対策を始めるとよいでしょう。

※飛散開始日とは、1平方センチメートルあたり1個以上のスギ花粉を2日連続して観測した最初の日

今回発表する飛散開始時期の予想は、2023年12月7日に発表した「日本気象協会 2024年 春の花粉飛散予測(第2報)」に比べ、今冬のこれまでの気温経過を考慮して、九州から関東は数日程度早くなりました。

2. スギ・ヒノキ花粉のピーク時期

スギ花粉の飛散がピークを迎える時期は、福岡・高松・東京は2月下旬から、広島・大阪・名古屋・金沢・仙台は3月上旬からとなるでしょう。ピークの期間は10日から1か月ほど続く見込みです。また、ヒノキ花粉のピークは、3月下旬から4月上旬の所が多いでしょう。仙台はヒノキ花粉の飛散量は少なく、はっきりしたピークは現れない見込みです。

春一番が吹くような、風が強くと急に暖くなる日があると花粉の飛散量が一気に増えて、ピークの時期が早まることも考えられます。ピークを迎える前から、万全な花粉対策を心がけるとよいでしょう。

2024年 スギ・ヒノキ花粉のピーク予測

種 類	2月			3月			4月		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
仙 台									
スギ									
東 京									
スギ									
ヒノキ									
金 沢									
スギ									
ヒノキ									
名 古 屋									
スギ									
ヒノキ									
大 阪									
スギ									
ヒノキ									
広 島									
スギ									
ヒノキ									
高 松									
スギ									
ヒノキ									
福 岡									
スギ									
ヒノキ									

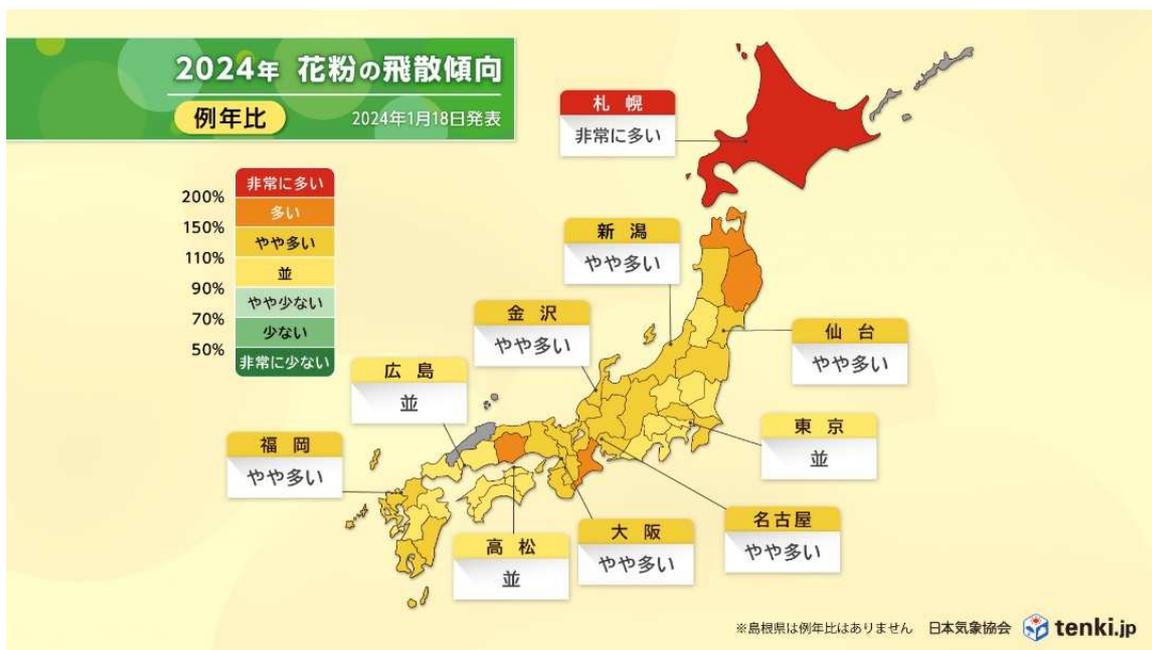
2024年1月18日発表 ※仙台はヒノキのピークなし

日本気象協会 tenki.jp

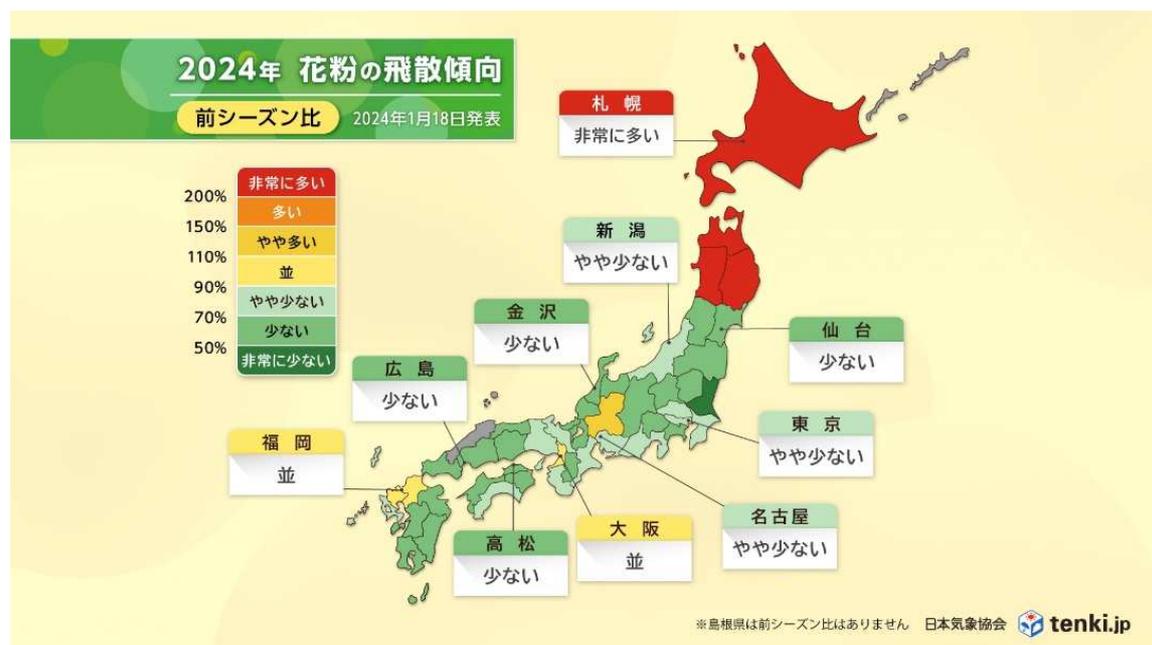
3. 2024 年春の花粉飛散量

(1) 花粉の飛散傾向 例年比・前シーズン比

2024 年春のスギ・ヒノキ、北海道はシラカバ花粉の飛散量は、例年(過去 10 年の平均)に比べると、九州から東北のほとんどの地域で、例年並みか例年よりやや多いでしょう。北海道は非常に多い見込みです。



前シーズン(2023 年)と比べると、九州から東北南部の多くの地域で前シーズンより少ないでしょう。東北北部と北海道は、非常に多くなる見込みです。





(2) 各地域の花粉飛散傾向

各地域の花粉飛散傾向は、例年に比べると、四国・関東甲信は 100%と例年並み、九州・中国・近畿・東海・北陸・東北は 120~140%とやや多い、北海道は 200%以上で非常に多い予想です。前シーズンと比べると、四国・中国・北陸・関東甲信は 50~60%と少ない、九州・近畿は 70%とやや少ない、東海は 90%と前シーズン並みの見込みです。東北は 150%と多いですが地域によって差が大きく、東北南部は少なく、東北北部は非常に多いでしょう。北海道は 600%以上で非常に多い見込みです。



(3) 花粉飛散量の予測根拠

花粉の飛散量は、前年夏の気象条件が大きく影響します。2023 年は、夏の猛暑の影響で、花芽の形成に好条件な「高温・多照・少雨」という気象条件が九州から北海道にかけて揃いました。また、花粉の飛散量は、前年春の飛散量も影響し、多く飛散した翌年は減少する傾向があるといわれています。2023 年は、春の花粉飛散量が多い傾向となったため、秋に観察されたスギ雄花の花芽の量は、ほとんどの地域で 2022 年の秋より少ないことが報告されています。

このことから、2024 年春の花粉の飛散量は、広い範囲で前シーズン(2023 年)に比べると少ないでしょう。それでも昨夏の猛暑の影響で、多くの地域で例年並みか例年よりやや多いと予想します。東北北部と北海道は、前シーズンの飛散量が少なかったため、前シーズンより非常に多い見込みです。

今回発表する花粉飛散量の予測は、2023 年 12 月 7 日に発表した「日本気象協会 2024 年 春の花粉飛散予測(第 2 報)」の内容を花芽調査の報告などを考慮して修正しました。四国・中国・近畿・関東甲信・東北は、例年比または前シーズン比が 1 ランク程度少ない傾向になった府県があります。



【花粉の種類について】

北海道はシラカバ、その他はスギ・ヒノキ花粉の飛散量を表します。

【飛散量に関する言葉の説明】

非常に多い	:前シーズン (例年)の 200%以上
多い	:前シーズン (例年)の 150%以上 200%未満
やや多い	:前シーズン (例年)の 110%以上 150%未満
前シーズン(例年)並	:前シーズン (例年)の 90%以上 110%未満
やや少ない	:前シーズン (例年)の 70%以上 90%未満
少ない	:前シーズン (例年)の 50%以上 70%未満
非常に少ない	:前シーズン (例年)の 50%未満

前シーズン	:2023 年シーズン飛散量
例年	:過去 10 年(2014～2023 年)の平均値

【2023 年夏の気象に関する言葉の説明】

平年	:1991～2020 年の平均値
----	------------------

◆日本気象協会の花粉飛散予測とは

日本気象協会は 1990 年からスギ花粉の飛散予測を発表しています。日本気象協会の花粉飛散予測は前シーズンの花粉飛散結果や今後の気温予測などの気象データをもとに、全国各地の花粉研究会や協力機関からの情報、花芽の現地調査の結果などをふまえて予測しています。

- ・本情報の無断での法人利用(プレスリリースでの引用や販促目的使用など)はご遠慮いただいております。
商品 PR など法人利用をご検討の際はお問合せフォーム(<https://www.jwa.or.jp/contact/>)からご連絡をお願いします。